

令和3年度 富山第一高等学校 学校経営評価

今年度の重点目標に対する総合評価と次年度に向けての課題

今年度のアクションプランを掲げると以下である。

- | | |
|------------------------------------|------|
| 1, ICT 機器の利点を生かした利用法の構築(教務部が担当) | 評価 B |
| 2, 生徒に基本的な生活習慣の改善を促す(1学年が担当) | 評価 B |
| 3, これからの時代に順応できる人材の育成(2学年が担当) | 評価 B |
| 4, 通学時のマナー向上と挨拶指導(生徒指導部が担当) | 評価 B |
| 5, 主体的・積極的に活動する生徒の育成(生徒会部活動振興部が担当) | 評価 A |
| 6, 自らの健康を管理できる生徒の育成(保健部が担当) | 評価 A |
| 7, 生徒の志望進路の実現支援(進学指導部が担当) | 評価 B |
| 8, 生徒・保護者また学外への情報発信の充実(総務部が担当) | 評価 A |

今年度の評価はA評価が3つ、B評価が5つであった。昨年度に引き続きコロナ禍の中、それぞれの部署が悩みながら業務を遂行した。その結果の評価であるが、どの部署もこれまでの経験が生かせないがゆえに、逆に厳しい自己評価を行ったと思われる。ただ、実際には思い描いていた結果を出せなかったかもしれないが、どの部署においても、当初掲げた目標達成のためにかなり努力しているように見えた。よってその姿勢は高く評価することができると思う。

このコロナ禍で否応なしに推し進めることになったのが、ICT 機器の活用である。授業はいうまでもなく、生徒・保護者とのつながり、教職員同士の情報交換等、コロナが収束しても猶更にその活用については学校全体で取り組み、そして教職員個々が研鑽を積まなければならないようである。

今年度当初上記のアクションプランとは別に、3つの本校の課題を掲げた。課題1はこのICT 機器導入に伴う学習面の充実であった。そして課題3は生徒のために何ができるかと問い続ける教職員の意識改革であった。この2つの課題がコロナ禍ゆえに推し進められたと考えている。いうまでもなく現在進行形であり、今年度はそのスタートを切っただけである。ゴールは全く見えていない。こういう課題が存在すると理解できたことが今年度の成果であったといえるだろう。

また、課題2は生徒の成長を促し、後には上級学校への進学に役立つような探究活動に力を入れるというものであった。これも上と同様スタートを切ったばかりで、次年度以降もその取り組みを継続していかなければならないが、いづらかでも本校教職員が探究活動に目を向けることができたという点では意義ある1年であったと考えている。

ところで、本校の教育目標の柱は「人作り」である。具体的にいうと、本校が生徒に求めていることが3つあり、それは「挨拶ができること」「清楚な身なりであること」「時間を守ること」である。殊にアクションプランの2、3、4、5はそうしたものである。コロナ禍ゆえに、人と人との関わりが制限されるが、人としての成長を生徒に促すこと、社会にとって有為な人材となるよう生徒を育成することを常に考え、この後も教育活動に関わっていかなければならないと考える。ICT 機器が導入されることによって、その方法手段は変わっていくといわざるをえないが、教職員の意思の根底には変わらない教育への信念を持ち続けたいと思う。

重点課題(アクションプラン)

1 学習活動 (教務部)

目 標	新学習指導要領を意識し、ICT 機器の利点を生かした利用法の構築
方 策	(1) ICT 機器を最大限に活用し、生徒の自主学習を促す (2) 新学習指導要領に対応した電子教科書、副教材、アプリを精選し、生徒の学習活動を促進させる
達 成 度	(1) 1 学年全体と 2 学年の一部のコースに ICT 機器を導入したが、十分な活用とはいえない。また、学習面での支援は各授業担当者に任せたので、その状況を十分把握していない (2) 上記の方策を実施しているが、生徒の学習促進までには至っていない
具体的な取組状況	(1) ・ICT 機器を 1 学年においては課題の配信や総合的な探究の時間に大いに活用した ・校内 Wi-Fi の整備など、ICT 機器導入に向けた環境整備を行った (2) アプリの活用や学習評価に関する研修を実施した
評 価	B
次年度への課題	(1) 学習指導要領が改訂され、教育内容が一新される中で、デジタルネイティブ世代の生徒にどのような教材を提示、また効果的に活用するか、スクールポリシーやコースポリシーを鑑み問われる (2) 教科書や教材など、従来とは異なる ICT 機器を用いた授業には教員の研修がさらに必要である

2 学校生活 (第 1 学年)

目 標	基本的な生活習慣の改善を促す
方 策	生徒との個人面談を複数回実施し、以下の指導を行う ①高校生活の柱は学習であることを自覚させ、部活動との両立を促す ②SNS の特徴を理解して、個人情報保護の意義や肖像権を尊重する精神を養う ③スマートフォンやタブレットは健康面に配慮し、長時間の使用を控え、適切に活用するよう指導する
達 成 度	・コロナ禍での安定的な学校生活が実現されず、基本的な生活習慣を身につけさせるに当たって計画的な指導を施しきれなかった ・学習指導については、その習慣化に向けた指導を適宜行った ・個人面談を通じて生徒の悩みなどに耳を傾け、解決に向け善処を試みた ・タブレットの指導についてはモラルやリテラシーなどの教育を実践したが、適切な指導を行ったとはいえない

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム時においてタブレットの使用方法を説明した ・総合的な探究の時間にタブレットを用いた学習を実践した ・生徒との個人面談を面談週間に限らず実施した
評 価	B
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習習慣定着に向けた生徒への啓発活動を行う ・進路指導の具体的な取り組みを始める ・継続してタブレット使用に関するモラルやリテラシーの指導を行う

3 探究活動（第2学年）

目 標	これからの時代に順応できる人材の育成
方 策	<p>総合的な探究の時間に、社会課題をテーマとした探究活動を行い、以下の力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ①講演やワークショップを通して、社会課題を多面的に深く学び、思考する力 ②仲間との探究活動を通して、主体性や協働性を高め、自らの意思を伝達できる力（コミュニケーション力） ③探究活動の成果をまとめて発表する力（表現力）
達 成 度	総合的な探究の時間は、年間指導計画に基づき、学年所属の教員が共通理解を図りながら協力し、組織的に指導することができた
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・富山市環境政策課の方に来校いただき行った講演「SDGs 未来都市とやま」を通して、SDGs の概念や富山市の先進的な取り組みを学び、自身の身近な問題を念頭に、日頃の生活において可能な活動について考えた ・SDGs のカードゲームを通して、その本質を楽しみながら学んだ。またチーム活動を通して、仲間と意見を交換し、協力して取り組むことの大切さを学んだ ・まち作りをテーマとした探究プログラムを活用し、探究について理解し、また実践しながら探究に必要なスキルを身に付けた。そして、一人一人が未来の社会の作り手としての意欲を高め、主体的に将来の課題に取り組んだ
評 価	B
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ用意された社会課題に対しての探究活動であったため、自分事として考えることが不足していたので、この後は生徒の興味関心をもとにしたテーマについて自ら課題を設定し、意欲的に探究活動に取り組ませたい ・コロナ禍のため、グループ活動が制限され、協働性やコミュニケーション力を十分に高めることができなかったことを鑑み、改めてこのことを目標に掲げたい ・総合的な探究の時間だけでなく、他の授業においても探究的な活動を取り入れ、充実した学びを生徒に与えたい

4 生徒指導（生徒指導部）

目 標	(1) 公共交通機関利用マナーの向上及び自転車の運転ルールの徹底 (2) すすんで挨拶のできる生徒の育成
方 策	(1) 校前指導を毎朝行う (2) 「さわやか運動」で挨拶や声掛け、乗車マナー指導を行う (3) 学年集会、「学年通信」、S・Tなどで具体例をあげて意識喚起を行う (4) 交通安全指導の日（1日・15日）には通学路に出向き、指導を行う
達 成 度	(1) 地域の方などから本校生のマナーへの苦情が若干あったが、概ね達成できたと考えている。ただ、自転車事故について、その件数は減少したが、救急車の出動を要請する事故が2件あった (2) 自ら挨拶のできる生徒はまだ半数である
具体的な 取組状況	・毎朝生徒への挨拶指導と交通安全指導を校前で行った ・朝終礼時や slack を通して、繰り返し丁寧に例をあげて交通安全指導を行った ・交通安全指導の日に管理職や副担任が通学路に立ち、挨拶をしながら指導を行った
評 価	B
次年度への 課題	(1) ことあるごとに交通ルールまたマナーの重要性を説き、交通安全指導を継続する (2) 自身から元気でさわやかな挨拶のできる生徒を増やすため、教員が日々、生徒への声かけを行う

5 生徒会活動・特別活動（生徒会部活動振興部）

目 標	委員会活動やその他の活動を通して、主体的、積極的に活動できる生徒を育成する
方 策	(1) 委員会活動において、一人一人の個性を互いに尊重しあうことの重要性を教える (2) 文化祭や体育大会などの学校行事は役割を分担し、個性を発揮する中で団結して取り組ませる (3) 社会に貢献できるよう、地域清掃活動などボランティア活動に主体的に参加させる (4) 将来設計の構築や目標の達成感を味合わせるため、部活動への加入を促す

達成度	<ul style="list-style-type: none"> (1) 委員会活動は活発に行われた (2) 文化祭、体育大会ともに開催し、生徒会役員、文化委員、体育委員が中心となり、分担して役割をこなし内容を工夫した (3) 地域清掃活動などボランティア活動に多くの生徒が参加した (4) 部活動への積極的な参加を呼びかけたが、昨年度に比べ 10%程度その加入率は下がった
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒会議会（学級委員長を招集）を開催し、学校生活について活発に意見交換をした (2) 規模を縮小したが、感染予防対策を徹底した中で開催することとした (3) 地域清掃活動などボランティア活動への参加を呼びかけた (4) 個人面談や生徒への声かけなどを通して、学校行事や部活動への積極的な参加を促した
評価	A
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員同士が活発に議論できるよう支援する ・委員会活動をさらに活発化させるよう支援する

6 保健指導（保健部）

目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生命を尊重し、生涯にわたり自らの健康を管理できる生徒を育成する (2) 感染症予防対策の実践力を高める (3) 学内の衛生環境の改善
方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 保健の授業で応急処置や心肺蘇生法を習得させる (2) 総合的な探究の時間に消防署職員を招き、救命講習を受講させる（対象は1・2年生） (3) 毎朝の健康観察、保健の授業、「保健室だより」等の配布を通して感染症予防や健康管理の意義を学ばせる (4) 保健主事を中心に学内の環境衛生の向上に努める
達成度	<ul style="list-style-type: none"> (1) 保健体育科の協力のもと応急措置や心肺蘇生法を学ばせることができた (2) 年度当初の予定を変更しながらも救命講習を実施することができた (3) 健康観察の ICT 化を図り、生徒のコロナ感染に対する予防意識を高めることができた (4) 感染症や熱中症対策また学校周辺の安全管理に対する調査・発信を行った

具体的な取組状況	<p>(1) 保健の授業を活用した</p> <p>(2) 学年・教務部の協力を得た</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の健康観察の ICT 化により、自己管理の下で健康観察ができるようになり、それは生徒の自己管理能力向上につながることとなった ・「保健だより」を年 5 回発行したが、時節柄の話題を多く掲載することで、熱中症や感染症に対する正しい知識を定着させることができた <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染対策プリントの掲示やウォータークーラーの使用についての制限、熱中症対策のための温湿度計の増設などを行った ・一部の部活動に対しては、部活動環境についての視察や調査を行った
評価	A
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・応急措置や心肺蘇生法の習得、救急講習を継続させる ・健康観察の入力率の低下に歯止めをかける努力をする ・教育環境を整えるための視察やヒアリング・調査などを実施する

7 進路支援（進学指導部）

目標	<p>(1) 入試改革に伴う新しい入試制度の分析と、生徒の進路志望に合った有効で実践的な情報提供を行い、進路目標実現へ向けた適切な指導を行う</p> <p>(2) 動画配信教材を利用し、生徒の基礎学力の向上を図り、進路目標の実現に近づくよう指導する</p> <p>(3) オンラインによるオープンキャンパスや面接の対策を第 3 学年の各担任や学年担当教員と練り、生徒が不安なく受験できる環境を整える。</p>
方策	<p>(1) 大手予備校からの情報や各種学校説明会に参加して得た情報を取捨選択し、各学年の担任に必要な情報を校内 LAN を活用して適宜配信し、情報の共有を図る</p> <p>(2) 各種学校や業者から送付されてきた資料を直接配布する</p> <p>(3) 各学年の特性に応じた適切な情報を配信する</p> <p>1 学年：2 年次に選択する文系・理系の情報に加え、1 年次から受験を意識できるような情報の提供</p> <p>2 学年：各種学校の設置する学問分野の情報だけではなく、入試制度に関する情報の提供</p> <p>3 学年：志望校決定の参考になる情報や入試制度および昨年度の状況に関する情報の提供</p> <p>(4) 生徒の進路志望調査をもとに、複数の教員が共通理解を持ち、進路実現につながる指導を行う</p>

	<p>(5) 動画配信教材を使った指導を週に 1 回程度行い、苦手分野の克服と基礎学力の向上を図る</p> <p>(6) 動画配信を利用した大学の講義を見たり、大学の教員と直接話したりすることによって、志望進路の具体化につなげる</p> <p>(7) 受験に関する様々な事項のオンライン化に対応し、情報提供や機材の貸し出し等を行う</p>
達成度	slack を活用し、担任への情報提供及び動画配信を使ったサービスを利用することによって効率化が図られ、いままで以上に多様化する生徒のニーズに対応することができた。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン面接に対する対応を年度当初から 3 学年担任と共有し、対策を図った ・昨年度に引き続き、校内 LAN を活用して各種学校の情報提供を行い、担任自身が取捨選択し生徒へ提供した ・動画配信教材を利用した学習支援を行い、生徒の苦手分野克服を行った ・昨年度利用した動画配信による大学の講義を視聴・記録させることに加え、オンラインによる大学教授との意見交換により、志望進路の具体化と志望動機の確立を図った。
評価	B
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大により様々な活動が制限されたが、昨年度の経験が生かされ、オンラインへの対応はスムーズになってきた。今後は感染拡大などを踏まえた受験の対策などを想定しておく必要がある。 ・来校者を制限せざるを得ず、必然的に各種学校や予備校からの情報が得にくくなっている。相互に連絡を取りながら、必要な情報を提供してもらうように依頼する必要がある。 ・担任の各種学校等に対する認知にばらつきがある。情報提供を依頼されたときだけではなく、積極的に担任に伝え、進路指導に活用してもらう。

8 情報発信（総務部）

目 標	<p>(1) 生徒に向けた情報を迅速かつ正確に発信する</p> <p>(2) 本校の教育活動をタイムリーにホームページ上に公開する</p>
方 策	<p>(1) Classi を導入し、殊に保護者への情報発信を行う</p> <p>(2) ホームページへは総務部だけでなく、各部署からもアップをする</p>
達成度	<p>(1) Classi を通して、学校の情報を保護者に迅速かつ正確に発信できた</p> <p>(2) 学校行事や入試情報をタイムリーにホームページに公開できた</p>

具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 新型コロナウイルス感染症の感染状況や行事の取りやめの通知、さらに定期考査のデータ、模擬試験や資格試験の情報を発信した (2) 学校行事を即日にアップしたり、入試情報を随時アップするなど、ホームページの充実に努めた
評 価	A
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 今年度同様に保護者が必要とする情報を迅速に発信する (2) ホームページを充実させるため、担当部署以外の部署からもアップできるようにする